●みやこし
宮古市

田老防潮堤
●たろうぼうちょうてい

「万里の長城」ともよばれた堅牢な防潮堤

総延長2.4㎞、高さ10mの規模を誇る田老町の巨大な二重防潮堤は、「万里の長城」ともよばれ、世界的に知られる防災のシンボルでした。

明治と昭和の三陸地震津波により壊滅的な被害を受けた田老地区(旧田老町)では、昭和9年(1934)に防潮堤建設に着手しました。第二次世界大戦を挟んで昭和33年(1958)に第一防潮堤が完成。さらに昭和54年(1979)までに第二・第三防潮堤が整備され、X字型の二重構造の防潮堤となりました。しかし東日本大震災による巨大津波は、この堅牢な防潮堤を超え、田老地区に甚大な被害を及ぼしたのです。

現在、壊滅を免れた第二線堤(旧第一防潮堤)は地盤沈下分をかさ上げして原形復旧され、津波の脅威を後世に伝えています。倒壊後に新たに整備された第一線堤とともに、ハード・ソフトの両面から、今後の災害時の防災が期待されています。

宮古市の被害状況

最大震度	5強
浸水面積	10㎢
最大浸水高	38m
全壊	2,677棟
半壊	1,328棟
一部損壊	444棟
死者	475人
行方不明者	94人
負傷者	33人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

田老漁港沿いにある白い2本の線状の部分が震災後に整備された第一線堤。第二線堤(旧第一防潮堤)は内陸側、写真右上の長内川のあたりから写真上中央の国道付近まで町を囲むように位置している

震災前に約4400人だった田老地区の人口は約2800人に減少。津波で浸水した低地は災害危険区域に指定され、住居専用建物の建設は禁止に。建設できるのは店舗兼用住宅のみになった

考えてみよう

Q1 過去、X字型の二重構造で、世界でも有数の堅牢さを誇っていた田老防潮堤ですが、東日本大震災の巨大津波による被害はどの程度だったのでしょうか?

この地区に建設されたたろう潮里ステーション(P33)で受付けている学ぶ防災ガイドに参加すれば、実際に田老防潮堤に立って、震災時の津波の様子や地域の防災についてガイドの説明を聞くことができる

その他
(防潮堤)

施設ガイド
※要予約

施設DATA

●たろうぼうちょうてい
田老防潮堤

☎0193-65-0031(岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター)
MAP P112E3

住宮古市田老川向地内
交三陸沿岸道路田老南ICから車で5分
時休料見学自由
Pなし

A1 海側の防潮堤の一部が津波で破壊された。防潮堤の被害は部分的だったが、乗り越えた津波が内側の集落を襲った。